



第19号

編集発行／碧南市

哲学たいけん村

無我苑

所在地／碧南市坂口町3-100

〒447-0087：TEL. 0566-41-8522

：FAX. 0566-41-7761



伊藤証信翁 講演記録

## 「先師 証信苑主最後の講演」

(昭和三七・四 桜桃会)

昭和三七年春、苑の恒例の桜桃会で、苑主伊藤証信翁は「人間は死んだらどうなるか」ということについて日頃の「意識主体論」を約二十分講演されました。その半年後、翁は八十八歳で進生（証信は死をこう表現した）しているのです、この講演が、ついに最後の講演となりました。

大手術をしてから身体が重くなつて、こうやってしばらくしていると疲れてしまうので、直に寝んならん、それでいつも安気に寝てばかりおる、そうしておれば一番楽なんです。どこにも痛くてたまらんとか、胸が苦しいとかいうことは一つも無いわけです。内臓はこれでわりあい達者なんですな。最近一番深く感じとることは、もう遠からず死んならんから、死んだらどうなるか、ということ。まあこれ考えずにおれんです。（年齢が）八十七ですから来年は八十八だ。で、死んだらどうなるか、ということ考えずにおれん。ところが段々考ええていき、先哲の教えやらを考えに入れて、ずうつと考ええていきよると、うーん、何とも言えない、安心するよりほかしよりのない、気持ちになつてきたんです。それはどうかと言いますと、私はだいたい科学的な理屈を考えることが好きなんで、それに合わんとどうも承知がでせん、それだつてまた先哲の教えを受け継がんと気が済まん。先哲の教えと科学的な道理とが合うと、そこではじめて承知ができる。それで兎も角私は何よりも大事なことは、この自分というものがあるには違いない、いろいろ考えたり何かするから。何処にあるか、ということなんです。現在、自分がどこにあるかということ。これは自分の手、手は自分を助けてくれとるですな。自分の助手です。手でも足でも。そ



れから目でも耳でも。その他、腹の臓でも、そういうところはみな助手で、自分を助けてくれておる。で、助けてもろる主人は一体どこにおるのか？考えたり、今の科学の理解を参考に考えるとどうしても頭の中心にそれがある、と考えるより考えようがない。今、日本の科学の一番新しい人で、湯川英樹という人ですな。あの人の説では我々の頭の一番中心に素粒子というものがある。一番素の粒じゃ。それがどうも自分だと、そこんと湯川さんはまだはつきり言っとりませんけれど、とにかく頭の中心、脳中枢というのが今の自分のおり場所だということは、

言うとするんです。どうもそれは動かんことらしい。その頭の中心はそう幾つかあらへん、そう幾つもあったら自分にならんですな。統一せんから。それは一つ、素粒子っていう粒は一つだと。厳密な意味で一つだと。二つ結合しとる、てなもんでもないですな。一つのものだからどうしたって割れ様がないんです。もとも一つのものだから割り様がない。そうすると我々、死ぬるといふことはどういふことかって言うと、この助けとるものがバラバラになって手も足もみな火に焼いたり、土に埋けたりしてしまふ。ところが頭の一点である素粒子は死んで焼

いて、火葬しても焼けるということが無い、つまり分子が分かれるということなから、分かれないう焼けやせん、焼けもせんし、腐りもせんし、どうにもそれは変わり様がないから、自分の頭の中心ってものは、それで、焼けもせんし、腐りもせん、何処へ行くか。種だから行くべきところに行くだろうに違いないが、それで、私に教えるそのインドの世親菩薩といひます、天神菩薩ともいひます、これは釈尊、お釈迦さんの後を継いだ心理学者、唯識論という本を書いております。今の言葉で言うと心理学者だなあ。この人がその我々は唯識、ただ一つの心、心が自分の主人になっておると言う、唯識論という本を書いてただ一つの心をずうっと細かく研究し、教えたのが世親菩薩。で、この人がこんなことを言うてはる。ちよつと難しいです、黒板があるといひけれど、つまりその、平たい言葉で言いますと、我々の現実の色々な行いですな、色々な行いは社会的な活動ですけれど、その行いをやりおると、心にその印象を刻み付けるといひます。そこへその、色々行ったことの種が宿る、つて言うんです。心つて言うたら脳の中心ですな。そしてその種が宿ると、種がまた今度は社会的な活動に現れてくる。で、活動になって現われてくると、種を刻み付ける。その刻み付けられた種が社会的な活動をする、こういふことを言うておられる。で、社会的な活動となつてくると、色々物質的な現在の活動になる。種を心に刻み付けると、その種つていふものになると、心理的なもので、物

質的なものではないんです。こういうことを言うておるのが、唯識論で、支那でも弟子達が著わしております。そうすると、その一生進んだものの活動が種になつて居る。心に宿る、とまた心から、その心の中には種があるから実際の活動になつて現れる。こういうことが言われて居ますが、どうもそれは丁度今の科学と合う、心理的なものの方面から説明したように思う。世親菩薩という人はなかなか偉い心理学者ですな。そうすると、私が死ぬるとどうなるかということですが、そうすると私に刻みつけてある種、一生進みつけた種からこの現実の行いが現れ、その種に相当した行いが現れてくる。その行いがいろいろの活動になつてくるんですな。その活動を現すには、やっぱりこういう身体やなんか揃わんとできやへん。心だけじゃ。そうすると人間に現れてくるには、その親を見つけて、その親の子になつて現れてこないかん。自分の宿る親はどこにあるか、ということ、その魂つて言いますかな、ちゃんと種になつて刻みつけられておるんだから自分を生んでくれる親に丁度適当したところへずつと居る。で、私が死ぬと、その一生進み付けられてある種から生けるうちは行いが出てくるんですけれど、その行いを現すに丁度都合のいい親の所へ宿る、行く。どこにあるかは今の私には分からんけれど、それはまあ、そう重いもんでもないですし、自分の適当した所に行きよるですな。今の科学では、遺伝論、つまり親に似ると。けれどもこの考え、世親菩薩の考えから言う

と、子が自分のいた親の所に宿るんですね。よう似とるけれどもちよつと違う。普通の生理学では親が子を産む、親が何の気無しに子を産むと、自分に似た子が生まれてくると。ところが世親菩薩の教えでは、それはただ出来るものではない、子が自分に似た親の所へ、産んでくれるのに丁度都合のいい所へ、ずうつとたずねて行ってそして宿るから、産むと親に似た子が産まれる、この方が自分に都合のいい、自分に似た親の所へ宿る、そういうことを世親菩薩が言った。ええ、しかし、奥深い考えをしたもんだと自分も思う。感動しておる。それで、私がこうやって、病氣して、直に死なんならん、さあ、何処へ行くか。どこへ行くか分からんけれども、自分が一生涯やってきたことが、種になつてゐる。そのお一生涯、と言うけれども、その実、私が生れる前、もうみな、はいつとるですなあ。それでその一生涯、ずうつと、いつからか知らんけれどもやってきたことがみんな種になる。その種を現実の行動として現すのに都合のよい親の所へ行く、不確かだけれども行って宿る。それは、まあ、このごろは宇宙って言葉がよう流行るけれども、太陽の近所とか、月の近所とかが水星、金星、まあ近所のどこか分からんがとにかくどこへでも飛んでいける。種は自分のところにちゃんとあるんだから。種がずうつと自分を引っ張って、孕んで自分を産んでくれるのに都合のいい所に、親の所に行く。そういうことが、疑い得ん、考えれば考えるほど、現在の科学に、従つて世親菩薩やお釈迦さんの教えなんか

もあり、背きようがない、理屈にも合つとるから。で、それは私のことを言うとするんだけれども、ここにおいてになる皆さんもやっぱり、杉浦さんなら杉浦さん、原田さんなら、原田さん、みんなその頭を中心に消えることのできない自己が、その人その人の自己がちゃんとあつて、それが長い一生涯、以前からやってきたことが、みな種になつてそこに植え付けてあつて、そしてその種が引っ張つてちよつと自分が宿るのに都合のいい親の所に行く、こういうふうになるんです。すると現在ここにおいてになる、親もいくらか似ておるに違いない、どこへ行かれるか分からんが、他日、ああ、あなたはここへ来られたんか、と言うて手を握り合う時もあるに違いない。そして一生涯播いた種によつてそれに適当した活動のできる所へ行くんじゃから。そらいつになるか分からんけれども、いつか出会うて、ご機嫌よろしく、とこう言うて喜びあう時がきつと来る。いつになるか分からんが、無限の時間があるんだから宇宙というものは、〈宇〉というの無限の空間を言う、〈宙〉というの時間と言つておる。その無限の空間、無限の時間へずうつと種に引っ張られて自分の今までやってきた種に引っ張られて、そして出ていくんですから、いつかはあなたがたとも出会うて、まあ、ご機嫌よろしく、と言つて祈り合う時が来るに違いない、と。こういうことを考えてみると、まあ安心して寝ておるよりまあ、しようが無い、それが私の今寝ておる心の状態なのです。このことだけみなさんに聞いて

ていただいております。それではこれで。※次号では「わたしの考える〈伊藤証信〉」を掲載します。

### あさ子夫人の死と証信

最後の講演となつた昭和三十七年の桜桃会の六年程前、昭和三十一年の十月にあさ子夫人が亡くなられた。証信はその二年後、次のような文章を亡き夫人追慕の意味を込め、機関紙「無我愛」に載せている。

朝子苑母よ、来月十二日は御身が突然進生してから、丁度満二年に相当する。今や御身は如何なる様姿にて、何処に在住して居るのか、何とかしてそれを知りたいと願つて居るけれど、今迄のところ私には種々想像する以外に、全く明知することが出来ない。即ち、今や御身はこ



の日本国中に居るのか、この地球上には居ないのか、さては水星・火星・金星等、この太陽系中に居るのか、或いはその他遙かに遠い他の星雲中へ飛び去つたのか、そして人間の形をして居るのか、動物・植物・鉱物の状態、さては美しい天女の姿か、又は恐ろしい鬼女の面相か。以上さつぱり判らないが、何れにしても約五十年の日夜、私と同棲、親しく夫婦生活をした期間、あれほど面白く有難く尊く、そして可愛い様相を現わす霊徳を具えて居たのであるから、爾来そして今後、何処でどういふ姿で生きて居るにしろ、その真価に於ては、更に上級の深い修行にいそしんで、益々高い霊徳を積み重ねていくことを疑うことは出来ない。この意味に於て満二年前に文字通り進生した御身は、万有への愛を理想する無我苑同朋永遠の母であるから、苑母と呼ぶに最もふさわしいと思うのである。(「朝子苑母に語る」『無我愛』第二五三号)

# お知らせ

## 第二十回瞑想回廊企画展示

去る六月十日から八月十日まで第二十回瞑想回廊企画展示「染める・染みる―沙羅の神話」が開催されました。期間中は谷崎綾子氏の幻想的な染色画が十九点展示され、大勢の方にご覧頂きました。



また、今年度二回目となる第二十一回瞑想回廊企画展示が来年一月から開催されます。県内を中心に活躍されている近藤文雄氏の作品を展示する予定ですので、是非ご来苑下さい。

日時 平成十六年一月二十日から  
三月二十一日まで(予定)

## 平成十五年度新春特別講演会

講師 梅原 猛氏(哲学たいけん村無我苑名誉村長・哲学者)

演題 「仏教のすばらしさ」

日時 平成十五年一月十八日(日)

午後二時から

場所 碧南市芸術文化ホール  
入場 無料(要 整理券)

## はじめての座禅

〈自分〉と向き合うきっかけをつくりませんか?

講師 丹羽康道氏(林泉寺住職)

日時 十一月二十九日(土)

十時から

場所 哲学たいけん村無我苑研修道場  
入場 二百円

## 来村者の声(アンケートより)

・忙しい日本人。時にはこんな施設で、ゆっくりしたいものです。お抹茶の安価でおいしかったこと。北新川駅からウォーキングするには丁度いい距離ですね。

(市外 ボランティア・主婦)

・何度訪問しても飽きない瞑想の里であると思います。ほっと出来る場所と感じ度々利用させて頂いております。

(市外 無職)

## 涛々庵茶会後期分

平成15年度「涛々庵茶会」席主表 (後期分)

開催日	席主
11月23日(日)	小笠原 利(宗紅)
12月21日(日)	杉浦 伸子(宗伸)
1月25日(日)	瀬田みな子(宗美)
2月22日(日)	安形 亮照(宗照)
3月28日(日)	高山 恵子(宗恵)

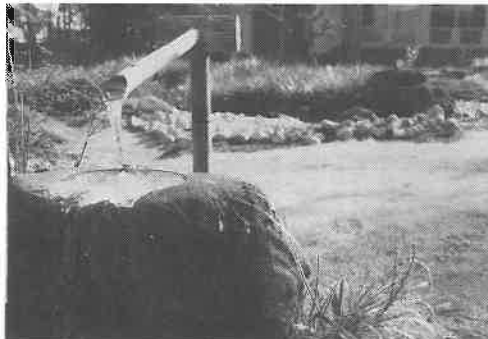
10時～15時(立礼茶席は16時まで)

・とても静かなところであって、この空間が気に入っています。私はダンスをしていて、世界各地(十カ国くらい)のさまざまな空間で公演をしたり、ワークショップをするチャンスを得ました。これも、ダンスだけでなく、人間の想像力を広げてくれるような時間が流れているので、いろんな公演やワークショップをするのにすごくよい場所だと感じました。

(市内 ダンサー)

## 編集室より

▽哲学たいけん村無我苑瞑想回廊は午後9時まで開苑しております。夜の瞑想回廊も昼間とは違った雰囲気の中、忙しい日常から離れ、ゆったりと過ごしていただけだと思います。是非一度夜の瞑想回廊へお越し下さい。



▽一昨年開催されたエンカウンター・グループが開催されます。エンカウンター・グループとはコミュニケーションを主体とした心理学の新しい技法により、現代人の「心と心の出会い」を模索する会です。来年の一月下旬から二月中旬に二泊三日の日程で開催する予定です。自分自身についての新しい発見や発想の転換、他者との信頼関係を得られるような会ですので、参加してみたいかがでしょうか? (詳しい日程や参加者の募集については後日村民通信等でお知らせします。)